

平成19年度 第3回金沢市入札制度評価委員会の審議の概要

開催日及び場所		平成19年11月30日(金) 金沢市役所 第3委員会室	
委員 (委員数5名) (出席数5名)		委員長 鴨野 幸雄(金沢大学名誉教授) 委員 春成 保(公認会計士) 委員 川村 國夫(金沢工業大学教授) 委員 坂井 美紀夫(弁護士) 委員 後藤 正美(金沢工業大学准教授)	
次第		1 開会 2 審議 ① 工事に係る入札・契約手続きの運用状況等 (1) 平成19年度発注工事について (2) 発注工事に係る平均落札率について (3) 入札参加資格停止等の運用状況について (4) 談合情報への対応状況について ② 委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等 (1) 平成19年度発注業務について ③ 総合評価方式の試行について ④ 低入札価格対象工事に係る契約後の履行確認実施状況について ⑤ 委員があらかじめ抽出した工事に係る業者選考等の経緯 3 閉会	
審査対象期間		平成19年4月1日～平成19年10月31日	
抽出案件		9件	
工事	制約付き一般競争入札	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・四十万中配水池(2号池)耐震補強工事 ・城北水質管理センター汚泥共同処理施設2号焼却炉機械設備工事
	指名競争入札	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・東部クリーンセンター投入扉定期修繕工事 ・武蔵横断地下道改修工事
	随意契約	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・城北水質管理センター災害復旧工事(電気設備) ・浅野雨水ポンプ場災害復旧工事(ポンプ設備)
委託	公募型指名競争入札	1件	・戸板第二区画整理事業 橋梁詳細設計業務委託(交-1工区)
	指名競争入札	1件	・臨海水質管理センター管理棟等耐震診断調査業務委託
	随意契約	1件	・三社落水人孔耐震設計業務委託
委員からの意見・質問、 それに対する回答		意見・質問	回答
		別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による報告 又は意見の具申		平成19年度の発注工事に係る入札・契約手続きの運用については、概ね適正に行われていると判断する。	

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1-1-1
 金沢市総務局監理課
 電話:076-220-2101

別紙

総 括	
<p>各委員からの意見は、概ね以下のとおりであった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合評価方式における優良工事施工業者に対するインセンティブの加味等を含めて、金沢らしい独自性のある評価基準の策定に努めること。 2. 低入札工事の品質確保の観点から契約後の履行確認体制の強化を図ること。 3. 個別工事の入札・契約事務の執行については、特に指摘事項はない。 <p>なお、意見の詳細は次のとおり。</p>	
意 見 ・ 質 問	回 答
<p>1 工事に係る入札・契約手続きの運用状況等について</p> <p>○ 昨年度と比較しても大幅に落札率が低下しており、価格競争が激化してきているが、これらによって品質等の低下に繋がっているのではないかと。工事成績はどうなっているか。</p> <p>○ 低入札価格調査基準価格を下回って契約した工事について2回以上、立入調査を行うこととなっているが、それ以外の工事においても、立入調査を実施しているのか。契約件数に比して立入調査実施数が少ないのはなぜか。低入札価格対象工事に係る立入調査において、2回目の調査では工事も進捗してきていることから出来形確認を含め特に綿密に行うように。</p> <p>○ 低入札価格調査対象工事となるのは、予定価格4,000万円以上で請負業者もAクラス等の上位クラス業者である。既に今年度、低入札価格調査基準価格未満で契約をした工事で、竣工した工事が2件で平均成績評点が8.3点とある。これは、この工事で立入調査を2回以上実施したこと及び上位クラス業者であったことが好成績の理由ではないかと。むしろ、これら以外の工事(下位クラスの業者で、立入調査が1回である工事)への配慮も必要でないか。</p> <p>○ 立入調査2回を超えて実施したことはあるのか。</p> <p>○ 建築現場では耐震偽装問題を代表するように鉄筋不足等の不良工事が問題視されている。これらの問題を解消するためには様々な施工段階での検査を実施することが、品質の良い工事成果物へ繋がるのではないかと。</p> <p>○ 今年度試行される総合評価方式の評価値を構成する加算基準について、技術力の評価、地域貢献度が評価されることとなっているが、金沢独自の伝統的技術力については、加算されるのか。</p> <p>○ 総合評価方式において安定的な品質確保のためには、技術力の評価に加え、入札参加業者の財務状況の分析も必要と思われるが。</p>	<p>・ 現時点では低価格による品質等への影響は確認されていない。また、工事成績においても今後、竣工検査を行うものも多く残っているが、今年度10月31日時点で工事が竣工し、検査が完了しているものは402件、平均工事成績評点は78.2点で、昨年度の平均より0.3ポイント上昇していることから問題ないと考えているが、引き続き注視したい。</p> <p>・ 低入札価格調査を実施しなかった工事についても1回以上は立入調査を行っている。調査実施件数が少ないのは、契約締結後、日数がほとんど経過していない等の理由から現時点では未実施であり、今後随時、立入調査を実施していく。また、2回目の立入調査では、工事の進捗状況に応じて適切に現場を監督するよう監督員に指導しており、特に品質管理、出来形確認には万全を期している。</p> <p>・ 今後ともすべての工事において、検査員及び監督員と連携を取りながら品質の確保を図る観点からも、施工業者の監督、指導を適切に行い、品質の確保に努めたい。</p> <p>・ 現時点での実績は無いが、工事期間の長いものについては必要に応じてできるだけ実施したい。</p> <p>・ 各施工段階での現場確認は、監督員がその都度対応している。また、検査員はこれらについて現場又は写真等で再度確認を行うなどの対応をしている。</p> <p>・ 総合評価方式は、今年度から試行的に実施するものである。技術力の評価内容については国及び石川県の評価に準じたものとなっており、本市独自の評価は行っていない。地域貢献度については本市との防災協定等及び除排雪委託契約の有無、また、本店の所在地で本市独自の配点の差をつけている。今後、試行を重ねていくなかで評価基準等の見直しを検討したい。</p> <p>・ 評価項目の内容は、財務状況を含めた企業全般の状況を反映したものと考えている。</p>

意見・質問	回答
<p>○ 総合評価での加算基準は今後変更があるのか。技術力のある県外大企業が有利となり、地元業者が落札できなくなる懸念があるので、入札金額と加算基準の配分には十分留意すること。</p> <p>○ 一般的に落札率70%代の低価格工事では、企業の利益及び工事の品質を確保することはかなり厳しい状況であるといわれている。よって、価格競争が激化している現状において、価格以外の要素を含めて総合的に評価し落札者を決定する総合評価方式による入札制度は工事品質の確保を図る観点からも重要である。 総合評価様式における技術力の評価について、同種工事实績の定義のあり方で参加業者数が変動するので、定義する場合注意すること。 優良工事施工業者に対して、これまで指名回数によりインセンティブを与えられたが、今後一般競争入札への移行によりこれまでの手法ではメリットがなくなることから、総合評価方式では、これらのインセンティブとして工事成績に対する加点の範囲を拡大する必要があるのではないか。</p> <p>○ 今年度の談合情報への対応状況について、1件の談合情報があったが、当該入札の結果はどうであったのか。また、落札率は何%であったのか。</p> <p>○ 平成19年度の工事成績評点に70点未満が1件あるが、業者へは、どのような対応を行ったのか。また、この工事は、やり直し等を実施したか。</p> <p>○ 立入調査は事前に施工業者に実施日を事前連絡するのか。また、低入札価格調査基準価格未満で契約した工事について、瑕疵等が判明した場合は特にマイナス評点として扱うなど品質を確保する上でも重点的に調査を実施することを検討してはどうか。</p> <p>○ 低価格で落札した工事が増加しているが、これら工事について品質の確保は図られているのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加算基準のあり方は、試行を重ねていくなかで見直しを検討していく。また、優良工事施工業者のインセンティブの加味、金沢らしい独自性のある評価基準の策定を検討したい。 ・ 同上 ・ 事情聴取では談合の事実は確認できなかったため、誓約書を提出させて入札を執行した。談合情報で落札予定とされる業者は、入札に参加せず、他の業者が落札した。落札率は93.7%であった。 ・ 該当業者(Cクラス)を以降の指名競争入札(対象業者Cクラス以下)への参加機会(指名回数)を減じた。 なお、一般競争入札(対象業者A・Bクラス)においては、入札参加条件に直近1年間の工事成績評点において70点未満があった場合、入札へ参加できないこととなっている。 また、当該工事において低評点となった原因については、工事の出来ばえ及び施工管理や現場代理人の現場対応等が不十分であったためで、施工途中において軽微な手直しはあったものの施工自体に問題はなかった。 ・ 現在、立入調査については事前に連絡を行わずに実施している。また、低入札価格調査基準価格未満で契約した工事については2回以上の立入調査を実施している。 ・ 特に土木工事の一般競争入札において低価格での工事が多くなっている。立入調査を実施するなど検査体制を強化するなど対応している。また、低入札価格調査基準価格未満の工事では立入調査を2回以上実施する等品質の確保に努めている。

意見・質問	回答
<p>2 委員が予め抽出した工事に係る業者選考等の経緯</p> <p>四十万中配水池（2号池）耐震補強工事</p> <p>○ 今年度実施した一般競争入札の中でも高額であり、かつ低入札価格調査基準価格未満での入札であったため、内容を確認した。</p> <p>城北水質管理センター汚泥共同処理施設2号焼却炉機械設備工事</p> <p>○ 低入札価格調査基準価格未満での入札であったが、安価になった主な理由は何か。</p> <p>○ 予定価格からすると共同企業体での入札になると思われるが、なぜ単体企業体での入札となったのか。 また、一定金額以上の入札であることから、地元業者を含めた共同企業体対象工事とできなかったか。</p> <p>東部クリーンセンター投入扉定期修繕工事</p> <p>○ 建築基準法の改正により建築業者は現在非常に多忙で、新規業務の請負を断ることも多いと聞いている。同様に、官公庁の入札状況にも反映しているか。</p> <p>武蔵横断地下道改修工事</p> <p>○ この工事の進捗状況は。</p> <p>城北水質管理センター災害復旧工事（電気設備） 浅野雨水ポンプ場災害復旧工事（ポンプ設備）</p> <p>○ 下水道処理施設のトラブルは、市民生活に重大な影響を及ぼす。水害からの早急な原状回復のための随意契約は理解できる。今後、下水道処理施設の水害対策はどのようなものか。</p> <p>戸板第二区画整理事業 橋梁詳細設計業務委託（交-1工区）</p> <p>○ 3件の公募型指名競争入札の委託業務において最も落札率が高かったのを確認した。設計業界の多忙と予定価格公表していない結果が影響しているかもしれない。</p>	<p>・ 設計額で大きな比重を占める機器費が安価であった。低入札価格調査において履行可能と判断した。</p> <p>・ 設計額の中で機器費の占める割合が75%であり、金沢市建設工事共同企業体取扱要綱において規定する「すべての構成員が、均等割合の10分の6以上の出資比率…」を確保できないため、単体での発注となった。 発注形態については、今後研究したい。</p> <p>・ 当初、一般競争入札で執行したが入札参加者がいなかったため、指名競争入札に変更し実施した。</p> <p>・ 工事は竣工し、検査も完了した。工事成績評点は77点である。</p> <p>・ 事故調査委員会において改善対策の提言があり、今後、施設の運転管理の見直しに加え、ポンプ機能改良等浸水対策を行っていく。</p>

意見・質問	回答
<p>臨海水質管理センター管理棟等耐震診断調査業務委託</p> <p>○ 指名対象は金沢市内の営業所のある土木コンサルとなっているが、指名業者10社の内訳は市内本社2社、市外本社8社となっている。地元業者の育成の観点から市内業者を優先的に指名できないのか。 耐震診断業務では建築的要素が高く建築設計業者を指名すべきではなかったか。</p> <p>三社落水人孔耐震設計業務委託</p> <p>○ 業務に精通している業者への随意契約であり、随意契約の理由は適切であると考え。8月20日の大雨にこの人孔は機能したのか。</p>	<p>・ 当業務を履行できると判断した登録業者は21社で、その中で本社市内業者は4社となっている。指名実績等を加味し、10社選考した。 当業務は土木と建築の設計での人件費比率が51:49で土木の設計割合が大きかったためである。</p> <p>・ 当人孔から近隣地区の雨水を増補幹線へ貯留できたので、周辺地区での溢水被害が生じなかったと考えている。</p>